

最初のお話をします。

私は、水族館に行くのが好きであります。ここで様々な生き物たちを見ていますと、いつもわくわくします。そして、自分もまるで水の中にいるような気分になりまして、何度でも行きたくありません。

ところで、私は最近、特に気になっているところがあります。それは、海から遠く離れたようなところにも水族館ができるようになったということでもあります。どういふことかといふと、以前は、水族館というと海の近くにあるというイメージがありました。ところが、今は違っています。例えば都会のビルの中にオープンするというようなことも増えているようです。

これには理由がありまして、ある技術が進んだことが関係しているようであります。そこで、今日は私が調べたことについて御紹介したいと思います。

先ほども述べたように、水族館というのは、これまで海の近くにあることが多かったようがあります。それはなぜでしょうか。

海の生き物を育てるためには、海水がたくさん必要になります。しかし、水槽の水というのはすぐに汚れてしまいます。もちろん、水をきれいにするための機械もありますが、水を入れ替えるという作業も行わなければなりません。こういうときに、海が近ければそこからすぐに海水を運んでくることができるということになります。こうした点から、海の近くにあるほう

が都合がよかったのではないかと思います。

しかし、ある技術が進んだことによりまして、変化が生まれました。それは、海水を人工的に作るということでもあります。その方法としては、普通の水に海水と同じような成分を混ぜるといふことであります。以前からこのような技術はありましたが、さらに進歩しまして、安い費用で大量に作る事が可能になりました。こうしたことによりまして、水族館がいろいろなどころにできるようになったというわけでもあります。ところで、こうした技術というのは、水族館だけではなくて魚の養殖にも役立つようでもあります。これにつきましても、以前は海の近くで行われることが多かったように思います。しかし、今ではいろいろな場所で養殖が行われているようであります。

さらに、ある研究が注目されています。それはどういふものかといいますと、魚の成長を早める効果があるという水が開発されたそうです。あります。もしこのようなものがもつと一般的になりますと、新鮮な魚を食べられる機会がどんどん増えていくかもしれません。さらには、養殖の仕事が増えて、新たな雇用が生まれるといふことも期待されているわけであります。

私は、これまで述べたような取組について、今後も技術の進歩を期待しています。そして、新たな視点で水族館を楽しんでみたいというふうに思ったのであります。

次のテーマに入ります。

私は、日本の各地を旅行することが趣味であ

ります。特に、お寺でありますとか神社を回るのが好きであります。それぞれの場所では、歴史の中で受け継がれてきたものを見ることができます。その中には、大きなものもありますし、小さなものもありますが、どちらも感動します。なぜなら、長い年月をかけて残されてきた文化財だからであります。

さて、先日、ふと思いい立ちまして、家の近所を回ってみることにしました。もしかしたら、近くに貴重な文化財があるかもしれないと思っただけであります。そうしましたら、想像していた以上にたくさん文化財が見つかりました。これは、市町村によって認められたものもありましたし、さらには、国によって認められたものもありました。

私は、とても驚きまして、これについて調べてみることにしました。すると、このような文化財を守ろうという運動があることを知りました。私の地元だけではありませんで、全国的な動きであります。これには、はつきりとした事情がありました。それは、今まで文化財がきちんと管理されてこなかったということでありました。知らないうちに、行方が分からなくなってしまうものも多いようであります。

それでは、なぜこういうようなことが起こっているのでしょうか。

主な理由としては、その多くが個人の所有であるということが挙げられます。例えば、市町村が所有しているものであれば、組織的に管理することができます。企業が所有している場合

も同じであります。しかし、個人が所有していませんと、細かいところまでは目が届きにくくなります。そのために、盗まれたり、なくしてしまったりすることもあります。

また、持ち主が個人である場合には、法律についてよく知らないということもあります。日本では、文化財に関する法律が定められていて、いろいろな決まりがあります。例えば、所有者が亡くなった場合であります。このときは、文化財は遺族に相続されることとなりますが、きちんと届け出なければなりません。ところが、それを知らずに、文化財をしつかりと管理していない場合もあるそうであります。

こういうことを防ぐために、全国のあちこちで、先ほど述べたような運動が続いているというところであります。つまり、地元にとどのような文化財があるのかということ調べて、保護するための方法を検討するわけであります。また、国としても対策を始めています。文化財がこれ以上失われないようにするために、丁寧に情報を集めるように気をつけているということでもあります。

私も、自分の住んでいる地域の問題については、少しでも協力するようになりたいと考えています。そして、旅行する人たちがそれぞれの土地の文化財を十分に楽しめるようになってほしいと思います。

最後のお話をします。

皆さんもよく御存じのとおり、現在の日本は生まれてくる子供の数が少なくなっています。

また、長生きをする高齢者が増えています。いわゆる少子高齢化という問題であります。

それに伴って、経済にも勢いがなくなっているとされています。すなわち、働く人の数が減りますと、経済が成長するスピードにも影響を与えるということでもあります。

この影響は、全国に及んでいます。地方においては、建物や道路が古くなっていても放置されているような状況が目立っています。もともと過疎化などで悩んでいる中であって、さらなる打撃となっているわけでもあります。

人々の暮らしを考えましても、道路などを維持していくことは大切であります。お金がないからといって、そういうことをやらないわけにはいきません。ただ、これからは整備する対象を絞り込んでいく必要が出てきます。今の日本は、社会そのものが縮小し始めているからであります。

それでは、どのように絞り込んでいけばよいのでしょうか。このことについて、様々な角度から検討が始まっています。

例えば、災害が発生した場所であります。よく知られているように、日本は自然災害が多い国であります。昨年から今年を見ても、地震とか水害などが各地で発生しています。もちろん、被災地については適切な復旧工事を行わなければなりません。ただ、今までは少し違う観点としては、元どおりの生活に戻すことにごだわらないという考え方があります。今後は、災害が発生しにくい地域へ移り住むことも選択

肢の一つとして考えてもらうわけでもあります。そうすることで、建築資材などの節約にもつながります。

もちろん、これはそういった災害の場合だけではありません。ふだんの生活についても絞らなければならない場合があります。例えば、夜遅くまで営業しているようなお店であります。今後は、営業時間を短くしたり、休みの日を増やしたりすることも考えなければなりません。それから、商品の配達についても同じであります。翌日にすぐ届くようなサービスは、見直しが必要にならなければならないでしょう。

実は、若い世代ではそういうことに対する価値観が変わりつつあると言われています。つまり、社会に対して便利さを求め過ぎないということでもあります。それと同時に、自分も頑張り過ぎないということでもあります。また、新しい商品を買うのではなくて、共同で使おうという発想も広がっているそうでもあります。

若い人たちは、日本が大きく経済成長を続けていた時代を知らないのです。そういった新しい考え方もなじみやすいと言われています。それは少し寂しいことかもしれませんが、これからの社会のためにはとても大切なことでもあります。私も、こうした考え方を取り入れていきたいと思うのであります。(了)